

第4回北区岩淵周辺地区かわまちづくり計画協議会 議事要旨	
開催日時	令和7年2月6日(木) 16時00分～18時00分
開催場所	荒川下流河川事務所1階 アモアホール
出席者	<p> 《委員》 【学識経験者】 ・荒巻 俊也 委員 (東洋大学 副学長/国際教育センター長 国際学部教授) ・二井 昭佳 委員 (国土舘大学 理工学部教授) 【地域関係団体等】 ・石渡 良憲 委員 (岩淵町まちづくり協議会代表) ・酒井 克昌 委員 (志茂まちづくり協議会代表) ・土井 富美子 委員 (北区・子どもの水辺協議会) ・織戸 龍也 委員 (株式会社岩淵家守舎代表取締役) ・杉山 徳卓 委員 (一般社団法人東京北区観光協会事務局長) 【北区関係職員】 ・吉田 直人 委員 (北区 政策経営部 シティブランディング戦略課長 地域振興部 産業振興課 副参事 観光振興担当) ・長久保 英邦 委員 (北区 防災まちづくり担当部 防災まちづくり担当課長) ・荒井 和也 委員 (北区 土木部 道路公園課長) </p> <p> 《オブザーバー》 ・渡辺 健一氏 (国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所 副所長) ・作田 大氏 (国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所 地域連携課長) ・黒田 裕夫氏 (国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所 地域連携課専門官) ・平田 智子氏 (国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所 地域連携課専門官) ・政所 拓磨氏 (国土交通省 関東地方整備局 荒川下流河川事務所 流域治水課技官) ・加賀谷 博文氏 (東京都 建設局 河川部低地対策専門課長) </p> <p> 《事務局》 ・北区 まちづくり部 まちづくり推進課 </p>
開催形態	公開
次第	1. 開会 2. 議事 (1) 第3回協議会の振り返り (2) ご意見の反映・変更箇所 (3) 北区岩淵周辺地区かわまちづくり計画(案)について 3. 今後のスケジュールについて 4. 閉会

議事要旨

議事：(1) 第3回協議会の振り返り・(2) ご意見の反映・変更箇所

○事務局より資料の説明。

【質疑応答】

○なし

議事：(3) 北区岩淵周辺地区かわまちづくり計画(案)について(資料18ページ「3.6ゾーン別の取り組み内容」まで)

○事務局より資料の説明。

【質疑応答】

○(委員) 幅広くいろいろなところに目を配った計画になったかと思う。対象エリアも前回と比べて拡大しながら、それぞれのエリアに対する位置づけと連携性も盛り込まれて良いと思うが、いくつか質問したい。前回の話の中であった河川敷内での施設(コーヒーショップ等)も排水の問題があるので、できるかはわからないが、こういうものを作りたいという話があったと思う。将来的に河川敷の中で施設を作ることが可能なのか、計画の幅が広がったのかをお聞きしたい、というのが一点。また、まちの話に繋がるが、ビジョンに「志茂旧道と赤水門をつなぐ」という言葉が入っている。「志茂旧道」という言葉は、もしかしたら志茂の方は日常的に使われているのかもしれないが、私は赤羽在住であるが志茂旧道という言葉は50年間に一度も使ったことがない。この言葉自身にどういう意味を持たせるかということを考えていて、これを中心にしたブランディングやまちづくりをしていくなら、その計画を提示いただきながらということならいいが、いきなり志茂旧道と出てくるところに違和感がある。一度議論いただきたい。ビジョンのメッセージは大事で、将来的にどこをどういう気持ちでやっていくかにかかわるので丁寧に議論を重ねていただきたい。それから、公民連携の話を出していただいているのはいいと思うが、その仕組みの話で、公民連携をどうやって起こすか。公民連携をいきなりやろうというのは無理で、プレーヤーを発見・発掘しながら、育成して定着する仕組みが必要となる。それをここに盛り込むかは議論が必要だが、必ず必要になる。計画の中でそういう人たちがいるという前提で、企業がいるというところを進めると、指定管理が公民連携だという考えになりがちである。これからの公民連携のありかたを考えたときには、もう少し気を付けながら公民連携の言葉を使う必要がある。公民連携の方たちを育てていくためには、彼らが活用できる場を作ることが必要になる。巨石の撤去があるが、このような広場等が各所でできてくる。そういうところが民間の活用場所として使えるようになるというイメージを文章の中に盛り込んでほしい。

○(事務局) 一点目の恒久的な施設について、資料14ページになるが、排水の問題があるのは事実である。長期的な高台整備のところでも記載しているが、例えば amoa や、宿舎の場所が高台整備されると、恒久的な建物が建ちやすくなると思っている。現時点だとトイレを優先し、amo の3階をまずは短期的に活用

できればいいと考えている。二つ目の志茂旧道について、皆さんの意見もお伺いしたいが、地図や Google map で志茂旧道という名称が掲載されている。また、防災まちづくりの計画の中でも生活道路ということで、任意ではあるが拡幅していくという路線に位置づけられている。そこを含めて推していければと事務局は思っているが、皆さんの意見をお聞きしたい。三つ目の公民連携のプレイヤーの育成や仕組みづくりについては、後ほど資料で説明するので、ご意見を頂きたい。ゾーンや広場でプレイヤーが活用できる可能性があるところは、文言で追加したいと思う。

- （委員）ゾーニングの方で整備案が出てきて、階段の改修やバーベキューの受付の場所が変わるが、動線としての下り方、道の改修は入ってこないのかお聞きしたい。
- （事務局）バーベキュー場の受付の位置は既存のトイレの横を考えており、既存の階段やスロープ等で回遊性は満たしていると考えている。動線や坂路については赤水門の前で階段を追加したり、横に伸びる通路を加えたりして、そこで回遊性を向上していく考えである。
- （委員）岩淵リバーステーションは、現在活用しているのか。
- （オブザーバー）一般に開放しているが、一般の利用があまりないのが現状である。どちらかというと行政が使っている方が多い。訓練やあらかわ号がよく使っている。
- （委員）定期的に使えるのか。土日にここが活用できるようになったときに、実際に船を提供していただけるのか。
- （オブザーバー）国交省の舟は災害対策支援船なので、観光目的に使用することはできない。
- （委員）例えば時間を指定して、午前、午後に1回ずつ、週末は1日2回定期的に使えるという考えでよいか。
- （オブザーバー）災害時は変わるが、常時の使い道としては考えられると思う。
- （委員）ドックランは実施することが決まっているので、そのお話をしてほしい。12日に岩淵町自治会館で説明会をやる予定で、20名くらいの方が参加する予定ではいる。ドックランについて説明してほしい。
- （委員）ドックランの業者が決まって、年度内の工事に向けて準備を進めている。一方で管理・運営や来年度以降については、地域の方の利用などお聞きしたいと考えている。スタートが大事だと思っているので、指定管理者を含めて犬好きの方を含めて会長にお話をお聞きできる場を設けてほしいという依頼をしたところ、快く受け入れていただき、ざっくばらんに意見交換をする場を設けていただいた。運営にあたっては獣医師会からも意見を頂きながら、予防接種をはじめ、注意することがあるというのを教えてもらっているので、そのやり取りができる場を今後も増やしていきたいと思う。まずは今年度中に作るということを大前提にやっていきたい。
- （会長）岩淵リバーステーションやドックランの話は計画の中であまり触れら

れていないが、資源として利用可能なものは計画書でも触れておいた方が良いと思う。

- （委員）リバーステーションのお話がでたが、コンテンツとして川を使ったアクティビティのときに、親水護岸を作るというのもあるが、どこから出入りするかというのは重要な話になる。観光協会がどういう可能性があるか調査している中で出てきた話として、あそこを自由に使える場、いろいろなことができる場という民間の事業者もいるが、気になったのが荒川の水位が低いということである。大きな船が入れず、荒川の水深が浅いので浚渫（しゅんせつ：川底の土砂やヘドロを取り除くこと）しないと常時活用はしにくいという意見も聞いている。いろんな形で活用ができたらと思う。
- （委員）協議の中で出てきた意見を今回いろんなところで検討され、良くなったと思う。パーゴラのイメージを教えてください。
- （事務局）パーゴラは四阿（あずまや）のようなものである。もしくは屋根がなく、すだれがかかっているような簡易的な建物である。
- （委員）amoa のボランティアをしているので気になったが、荒川知水資料館（amoa）はできて26年が経った。なので、建物もそれなりの状態である。7月と8月にトイレの水があがらなくて、トイレの使用が中止されていた。そういう時に限って、赤水門が重要文化財に登録され、地方からのお客さんが多く、ガイドからトイレが使えないと謝ることが多かった。2~3か月後に解決して利用できるようになったが、amoa のボランティアもトイレをどうにかしてほしいという意見が多く出ている。カフェになってお客さんが増えることは大歓迎なので、今後何か問題が出てきたときにすぐに対応できるように体制を整えてほしい。
- （オブザーバー）amoa のトイレが壊れたということで、いろいろなところが長年経ち、不具合が出てきたのは確かである。荒川下流河川事務所も北区も共同運営しているので、少しずつ予算を確保しながら、壊れないように維持管理に努めていきたい。限られた予算を有効に活用していきたい。船については、緊急用船着場は岩淵のほか、管内の荒川沿いに11か所あり、一般の方も利用してもらってよいということをHPで公表している。そのようなところも見ていただいて活用していただきたいという気持ちがある。川の水位が変わったり、橋があって高さの制限があったり、川の河口はその特性上、上流から土が出てきて堆積するというのがあるので船の航行に支障になる場合がある。現状は大きな船でなければ上がってこられるが、大きな船は、荒川は1日2mくらい干満があるので、それによって橋が支障になったり、土が堆積して舟底がすったりするときがあるので、船を選びながら来ていただけたらと思う。あらかわ号は水深が浅いところでも行ける船なので、そういうタイプの船であれば活用可能。舟運が活性化すれば、河川管理者も定期的に浚渫を行う必要がでてくると思うので、限られた予算の中で工夫して行うことになると思う。
- （副会長）短い期間で様々な項目を検討いただき、充実した内容になってきた。

1つに、公民連携を掲げているが具体的にどこでできるかわからないという話があったが、実際、区としてはカヌーや広場としてイメージがあるかもしれないが、資料の中に明記されておらず、わかりにくい気がする。資料9ページの基本方針4「公民連携によるにぎわい・まちの魅力づくり」の「公民連携によるにぎわい」も amoa の活用だけが公民連携のように読めてしまう。例えば広場や水辺のところ、堤防上の休憩スペースもキッチンカーなどが想定されるので、基本方針4は、amoa だけではないということが伝わるような書き方にした方が良い。ゾーン別の取り組み内容のところも公民連携を想定しているところについては、“公民連携による”や“民間の”という文言をちりばめると、具体的に読んだ方が、こういうチャンスが広がってくる、と読み取ってもらえると思う。もう一つが、かわ側が充実してきている一方で、まち側がどうつながっていくのかを、どう見せるのかというところがまだ課題としてあると思う。例えば資料18ページで地域資源の活用について、名称だけでわかる方もいると思うが、私は赤羽駅から歩いてくるので、一番左の赤羽岩淵駅の方の志茂旧道の方を通ってくるが、そこで織戸さんのやられているものがあったり、お寺や銭湯があったり、そういうところを見せながら、具体的に魅力的な資源をつなぎながら人が流れていく場所を作っていくというところを見せられると、見た方がイメージしやすいと思う。またウォーカブルの話になってきたときに、通り抜けの車がいるという問題が以前も指摘されていたと思うが、今決定的な方法が明示できないまでも、人が歩きやすくするということは、少なくともこのエリアにたどり着く必要がない人は入ってこないということが大事になってくるので、車の通り抜けを減らすような工夫をするというところを可能であれば明記した方が良いと思う。最後が、大きな話になるが、別紙の計画案の表紙に当該エリアのパスがあるが、今後パブコメをかけるときに最初に見る絵が表紙になる。この絵の中で一番目立つのが重要なポイントとして認識されると思う。今のパスだと、水辺の護岸と右側の大きな階段が目立つが、今回の整備案の全体像で言うと、赤水門の周りに日常的に人が集まる空間を作ろうという思いがあると思う。テーマとしては赤水門があり、その周りでそれを眺めながら荒川の水辺があり、のんびりした時間を過ごそうというところなので、それが伝わる絵を載せていただいて、こんな場所が赤水門のところにできるんだというところを最初のページで伝えるには、どう見せるかというところを検討した方が良い。

○(事務局) 公民連携については amoa だけでなく、広場や水辺、キッチンカーなどで記述するのと、もう少しゾーン別に明記するようになりたい。まち側については資料18ページで見せ方を工夫していければと思う。通り抜けについても課題であるというところを記載できたらと思う。表紙のパスのところは、資料14ページで赤水門をメインとした絵があるが、そのような絵を示すなど、工夫して進めていければと思う。

○(会長) 公民連携の基本方針4の黄色いボックスのところ、再エネの導入等が書いてあるが、ここで特に再エネはメインではないので、周りの資源を使っ

た形での公民連携の書き方が良いと思う。

- （事務局）基本方針のところはもう少し公民連携を記述し、再エネについては別のところで記載したいと思う。
- （委員）指摘があったパースの話は重要で、今の絵は楽しい絵になっていない。作るときにイメージを伝えるということで、どういうイメージを伝えたいか、将来ビジョンなので、将来この地域が良くなるということをどう伝えるかがイメージ図になると思う。全体を見ながら単に絵にしたという感じなので、気持ちや思いを、皆さんに夢を与えるというところが欠けていると思うので、全面的に書き直してほしい。
- （事務局）表紙については再考する。
- （会長）表紙は大事だと思うが、資料 14 ページの下のパース、赤水門広場の活用のイメージの方がいいのではないか。
- （副会長）上から見ると人が楽しんでいる様子が書きづらく、動きでしか表現できないので、全体の配置が中に入っているとして割り切るならば、アイレベルに近い状態で赤水門に寄っている水際で何かしている人や、上の堤防の天端でお茶を飲んでいる人、法面の途中のベンチでお話ししている人、水辺では…という形で、もう少し寄って人の雰囲気が出るような、このシーンをメインとして作りたいというものをつくれれば良いと思う。
- （会長）表紙のパースは別で使って、表紙は人が見えるような絵がいいというご意見であった。ビジョンは事務局として意見が欲しいところかと思うがいかがか。
- （委員）地元の方は志茂旧道ではなく岩淵の方を旧道とっている。志茂の方からつながってきているが、志茂自体は昔は畑や田んぼで、今とは違う。我々が旧道というのは、岩淵小学校の志茂から流れてきている道のことを言っている。旧志茂というのは、いつから作ったんだろうと資料を見て思っていた。
- （委員）先ほど防災まちづくりの話で志茂旧道の文言があったという話があったが、観光的な話からすると、北区赤羽エリアというのはもともと何もないところで、どちらかというとも岩淵が岩淵宿で歴史的な背景を持っていると思う。旧道と志茂のイメージがつかない。昔の街並みが残っていればリノベーションをするなどマネジメントができるが、残念ながらなかなかそういうものがなく、黒田機器の建物があることはあるし、ただこの話を象徴するのに“志茂旧道”というのは不適切だと思う。人によって違うかとも思うが、もう少し皆さんが共感できる言葉が選ばれるべきだと思う。
- （委員）赤羽と川をつなぐところに旧道が複数あり、それを志茂の人が回遊しているということであれば、古くからある道が川と赤羽をつないできた地域の方の思いとして、旧道という言葉を残した方がいいかと思う。そこで、旧道がどこを指しているのか教えていただきたい。
- （委員）八雲神社の前から橋のところである。もう一つ今の 122（国道 12 号）のところに仙台橋の石碑がある。赤羽岩淵駅の前の方に仙台橋とって、

仙台藩が昔かけた橋だが、それが石碑に残っている。

- (委員) 石碑も小さいからわからないと思う。私は昔観光案内をやっていたので調べたが、志茂旧道という言葉は観光ガイドの時は出てこなかった。ここにきて志茂旧道があるのかと驚いた。
- (委員) 122 のところで、昔はそんなに広くなかった。
- (委員) 122 の道路が昔どれくらい狭かったかというのは、八雲神社に神輿を担いだ写真があるが、これが 122 だよというのがあるくらい、そんな広い道路ではなかった。八雲神社のあっちのところの方が広がったかもしれない。そこから橋がなかったので、渡しが出ていた。
- (委員) 橋ではなく、船を並べて将軍が御成街道で通れるようにし、撤去する、そして帰ってくるときにまた渡れるようにしていた。
- (委員) 地元の認識が薄いのであれば、道路の名前は使わなくてもいいと思う。旧宿場町と赤水門をつなぐ等でもいいと思う。
- (委員) 旧道という言葉はいいと思う。旧道といえば、志茂から岩淵へ来る道とわかる。志茂旧道というと思う。
- (委員) これから新しいことをやる中ではウォークアブルなまちのなかで、道路の付け方やルートは出てきても良いと思うので、全国でも〇〇戦略といってそのエリアを回遊すること自体に名前を付けたりするが、志茂旧道もそこまでこだわりはない。これまでの話の中で、岩淵・志茂・赤羽という言葉を全部入れようという流れがあったと思う。ただ、そこは気にしなくてよいのではないかと思う。
- (委員) 今は岩淵町という名称だけが残っている。昔ながらの呼び方をしているのはその四つだけ残っていて、そのまま使っている。新しく来た方は防災訓練をやった時に受付で片町、宮本などの名称を出す、その名称が分からない方がいるので教えてあげながら受付をする。今はこの方法でやっているが、今後は新しい方法というのもあると思う。
- (副会長) 気になったのは、地図上で志茂旧道はあるが、資料 18 ページで強化したいルートが志茂旧道と地図の中で半分くらいしか合致していない。地元の皆さんがこの言葉を大切にされているのかとと思っていたので、そうではないのであれば、志茂旧道という言葉にするのが良いのかというのは議論の余地がある。
- (事務局) 志茂旧道をまちという面にとらえ、「まちと赤水門がつなぐ」や「旧宿場町と赤水門をつなぐ」というところできかがか。
- (会長) 志茂旧道という表現をやめて、まちと赤水門をつなぐ、旧宿場町と赤水門をつなぐという広く立体的にとらえるというイメージでどうかという事務局からの提案があつたがいかがか。
- (委員) これから将来に向けて、宿場町としての資源がこの場所はないので、それで方向性をまとめてしまうのはまずいと思う。一般的な“まち”という言葉の中でふくらみを持たせた方が良いのでは、というのが率直な感想である。

- （会長）ご指摘の通りで、宿場町の文言があると引っ張られるし、資料の中で宿場町を活かすということが入っていないというのはあると思う。
- （事務局）まちを面としてとらえて、まちと赤水門がつなぐ…というところできかがか。
- （副会長）まちにするのであれば、固有名詞の赤水門が先に来た方がよい。
- （事務局）“赤水門とまちがつなぐ”というところで修正したい。
- （会長）赤水門とまちがつなぐ、というところでビジョンの修正を進めていただきたい。

議事：（3）北区岩淵周辺地区かわまちづくり計画（案）について（資料19 ページ「3.7 計画の目標年次について」以降）

- 事務局より資料の説明。

【質疑応答】

- （委員）目標設定と評価のところが重要かと思うが、例えば岩淵地区の利用者数の増加については、どうやって出すのか。調査などで出ているのか、岩淵地区の利用者について計算しているのかはお聞きしたい。また、基本方針4でイベントの動員数の増加について、観光協会は北区花火会をやっているが、河川敷に六万人くらい来ているが、これでインフラがそれを受け入れられるかという話の方が大きい。呼ぼうと思えば呼べると思うが、インフラ的に耐え切れず、その人数になっていると思う。僕はプレーヤーが公民連携などで、地域でどれくらいそういう機会を使っていくか、その方が人数ではなくて大事かと思う。人数は大きいものをやればウエイトが大きくなるので、それでよしというわけではない。いろんな人が自分たちの思いを現実にイベントや活動につなげていくということが重要で、数ではないと思う。KPI や目標設定は難しいところで、数値に落とす必要があり悩ましいと思う。目標と関わるが、かわまちづくりの推進体制について、エリア・デザインの話がされている。また、全体的にエリア・デザインの話はいい方向性だと思っているが、ヒト・モノ・コトについて最近このような書き方をするが、一番大事なのはお金である。ヒト・モノ・コト+お金というところで、お金の動きをどうするかというのを行政も見据えていかないと計画として不十分になると思う。地域のお金とマンパワーもそうだが、資源をどうやって使うか、そういう視点を盛り込んだ、意味を持った計画になって欲しい。
- （副会長）整備案の全体像が充実してきてかなり期待が持てると思っているが、今はまだメニューに過ぎない。民間事業者が参画するか区民をはじめいろいろな人が訪れるかは、メニューに沿ってできる空間がどれだけ魅力的になるかだと思う。そういう意味では民間事業者との連携について充実して書いていただいているが、あわせて今後動くハード整備について、どのように空間デザインとして進めていくかということも、どういう形で触れるのかということもあるが、重要なポイントとなると思う。国交省と区で連携しながら、そこに設計者

を加えて連携していくことが重要であると思うので、空間の活用の話と並んで、どのようにハード整備を進めていくか、特に「質の高い空間」を目指していくことについては文言として入れていただきたいと思う。

- （委員）資料 10 ページのビジョンで「赤水門とまち」ということであったが、この中で赤羽と岩淵と志茂という地区の名前がでてきているので、川に近い岩淵・志茂・赤羽というところで、最後については 3 地区を並べて書いたらどうか。
- （会長）推進体制の仕組みやハードの空間をどう設計していくかという話があると同時に、せっかく赤水門が出てくるので、これをどう PR しながらつなげていくのかというところ、推進していくうえで赤水門があり、いろいろな魅力的な空間ができるので、広報や PR という視点もあっていいと思った。
- （事務局）杉山委員より指摘があった評価指標の河川の利用者数については、河川空間の利用実態調査からある程度把握できると考えている。基本方針 4 のところで、イベント 1 回あたりの動員数ということになっているが、ご意見にあったプレーヤーの方々が利用する回数にするなどに考えていきたいと思う。また、収益性の確保については、文言は加えたい。二井副会長からのハード整備の質についても、質が高いハード整備をしていくというところも記述したいと考えている。荒巻会長からの赤水門の PR も記述を増やしていきたい。
- （委員）お金の話だが、岩淵リバーステーションを船で利用するというのは無料なのか、有料なのか。
- （委員）船着き場については手数料条例で料金を取ることにしている。減免など、協議会等でご意見を聞きながら、賑わいをつくるためにできることを工夫していく余地はあるが、基本的には料金を取らせていただく。
- （委員）赤羽ピクニックフェスタを今年もやる予定はあるか。
- （委員）今年も実施予定である。後日情報提供する。
- （委員）以前国交省の方から地域の活性化に対するファンドを地域でやっているという話を聞いた。かわまちづくりの中で地域のファンドを活用していくとか、地域の志がある人たちとお金を集めながら活性化の原資にしてくというスキームがあると思う。その辺の話がどうかというのと、観光協会が関係しているまちづくりファンド、しぶさわくんファンドと呼んでいるが、国交省の関連団体とでお金を出し合ってファンドを作っている。エリアは赤羽岩淵を中心にしたエリアということで、当初ファンド設立時はかわまちづくりを想定していた。かわ側の土木の話は国費や区費であると思うが、そこに民間のお金をどう投入するかというのも重要である。それと並行して、まち側の整備も進めていく、まちづくりファンドのなかで行っていかなくてはいけないというところで、少し早めに整備している。一応、まちの中でリノベーションなどの物件について優先的にコンサルなども入れながら、投資をしている。まちづくりファンドの機能上、どういう制約があるかというのもあり、国の中の河川敷に投資できるかは定かではないが、仕組みを実装していかないと、具体的に動いていかな

いと思う。ほかのところでは、国交省でファンドを作って地域からお金を集めて活性化資金にしているという話があったので、お話を聞きたい。

- （オブザーバー）ファンドについて、国交省がファンドを作ることはないが、都市・地域再生等利用区域に指定すると、もともと商売ができない河川区域の中でも収益をとれる活動をすることができる。今後、北区を通じて資料を提供するが、国交省の説明資料上は都市・地域再生等利用区域に指定されたあとに組織を立ち上げて、その組織がファンドを作るという形になる。また、目標と指標の中で空間利用実態調査があるが、それは5年に1回のものになるので、やり方は区と協議したい。
- （会長）これまでの意見では、目標数値の4点目について、イベント動員数だけではなく多様な参画者がどのようなイベントに関わったかという視点で修正すること、推進体制で都市・地域再生等利用区域についても話があるのでその可能性について考えていただくというところ、デザイン・PRを含めた記述があるとよいという話が出ている。
- （委員）資料23ページのかまちづくりの推進体制について、大きく6つの構造になっているが、“ストック更新における公益性をふまえたまちづくりの誘導”はどのようなことを指しているか。
- （事務局）エリア・デザインの考え方として区の大規模公共施設の整備や更新の機会をとらえて、公共的空間の活用、にぎわいづくり、地域の特性に応じたまちづくりを行うという計画になる予定であり、ストック更新における公益性というのは国の施設を指している。ここで申し上げますと、想定としては amoa 等を考えている。
- （会長）最後にビジョンのところでもう一点提案があった。赤羽岩淵で終わるのではなく、岩淵・志茂・赤羽と並べてはどうかという提案についていかがか。
- （事務局）よろしければ、赤水門とまちがつながるところ、赤羽の駅の名称というところもあるので、今のビジョンで活かしていきたいと思う。
- （委員）赤羽と岩淵をつなぐものは、日光御成道というのは一番つながるか考えた。
- （会長）日光御成道だと広くなり、皆さんが分かりづらくなる可能性もある。
- （委員）この計画は対象地域が岩淵、志茂であり、概念として赤羽駅までのイメージを持った時には、もう少し大きなくくりもあるかもしれない。そうすると赤羽駅から河川敷までの動線の中で赤羽・志茂・岩淵というところが入ってくるので、赤羽、岩淵、志茂の三つがこの順で並べるといいのではと思う。
- （会長）駅名が赤羽岩淵、志茂であるが、まちとしては赤羽、岩淵、志茂なので、三つを切り離してつけるという考えがあると思う。そうすると駅名にこだわることはないのではないかと思う。
- （事務局）皆さまの意見をもとに取りまとめは会長一任とさせていただきたい。（各委員同意）

今後のスケジュールについて

- パブリックコメントを3月10日（月）から予定している。
- パブリックコメントの計画説明会を実施予定。詳細についてはホームページや北区ニュース等でお知らせする。
- 次回の第5回協議会は令和7年5月15日（木）18時同会場にて開催とする。

以上